



YVBデジマ説明会

データで地域活性化
 「八重山ポイント」構想も



齊川満氏

電子メディアを活用して適切なプロモーション施策を行い、顧客データを可視化してマーケティングを行う「デジタルマーケティング」の説明会(主催・八重山ビジャーズビュロー)が14日午後、石垣市商工会ホールで開催された。講師の(株)サイモンズ代表取締役

デジタルマーケティングの説明会の来場者ら14日午後、市商工会ホール

社長、齊川満氏は「地元活性化の戦略の上に観光戦略がある」として、行政、観光協会、企業などの消費動向、顧客の行動動向が把握可能な「地域データベース」の構築・活用を提言した。

し、「店舗グループ内外の消費者動向も分析でき、町全体のお客さんの動きを理解できる。店同士でのキャンペーンも可能」と強調した。群馬県みなかみ町の地域ポイント制度や宮城県気仙沼市の「気仙沼クルーカード」ポイントの事例を挙げ、「QR決済や今年実施予定のマイナンバーのポイントなど、それらを八重山ポイントに変え、そのポイントを八重山で使える仕組みをつくりたい」と話した。

齊川社長は観光戦略の1つである「キャッシュレス化に触れ、キャッシュレス化すれば地域が活性化するわけではない」と指摘し、ポイントサービスを通じて地域特性を数値化し、各店舗や地域の活性化につなげる、同社提供の「持続可能な循環型地域活性化システム」の利点を紹介。

説明会には行政、民間企業などから約30人が参加した。

ポイントシステムやQR決済、多言語翻訳システムなどから集積した▽消費動向▽加盟店利用者数▽男女、市内外、年代別▽などのビッグデータを活用